

平成28年度 静岡県訪問看護実態調査 (病院・診療所)

I 目的

本調査は、静岡県内のみなし訪問看護の実態を把握し、今後の訪問看護活動の発展向上に役立てることを目的としています。

II 調査概要

1. 調査対象 静岡県内で、平成27年度にみなし訪問看護実績のあった病院・診療所 62ヶ所
(東部20ヶ所、中部25ヶ所、西部17ヶ所)
2. 回答件数 38件 (回収率61.3%)
3. 調査内容
 - 1) みなし訪問看護の実施状況
 - 2) 看護職員の就業状況
 - 3) 看護職員の研修受講状況

III 調査方法

郵送配布・回収 (自記方式)

IV 調査期間

平成28年5月16日～7月15日
調査基準期間：平成28年6月1日～30日

V 調査結果

1. 医療機関の概要

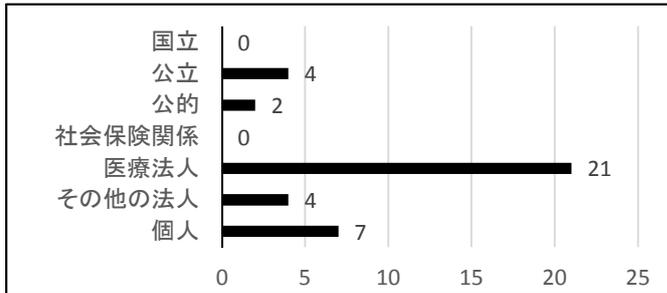
1) 設置主体

医療法人が21ヶ所 (55.3%) と最も多い。次いで個人の7ヶ所 (18.4%) であった。その他の法人は4ヶ所 (10.5%) で、内訳は社会福祉法人・社会福祉事業団・公益社団法人・株式会社が各1ヶ所であった。

表1 設置主体別割合 (n=38)

設置主体	数	割合
国立	0	0%
公立	4	10.5%
公的	2	5.3%
社会保険関係	0	0%
医療法人	21	55.3%
その他の法人	4	10.5%
個人	7	18.4%
計	38	100%

図1 設置主体別割合 (n=38)



2) 病院の種類 (病床の種類)

入院施設のある17ヶ所の内「一般病床のみ」が9ヶ所 (52.9%)、一般病床に加え介護療養型病床があるところは5ヶ所 (29.4%) であった。介護療養病床のみのところは3ヶ所 (17.7%) であった。精神科・結核等の病床は無かった。

表4 病床の種類 (n=17)

種類	数	割合
一般のみ	9	52.9%
一般に介護療養病床有	5	29.4%
介護療養病床のみ	3	17.7%
精神	0	0%
その他 (結核・感染症)	0	0%
計	17	100%

3) 入院設備 (医療施設の種類)

入院設備は「有床」が17ヶ所 (44.7%)、「無床」が21ヶ所 (55.3%) であった。「有床」の内訳は、19床以下の診療所が6ヶ所 (35.3%)、20～99床が3ヶ所 (17.6%)、100～300床が4ヶ所 (23.5%)、300床以上が4ヶ所 (23.5%) であった。

表2 入院設備の有無 (n=38)

	数	割合
有床	17	44.7%
無床	21	55.3%
計	38	100%

表3 有床数の内訳 (n=17)

有床数の内訳	数	割合
19床以下	6	35.3%
20～99床	3	17.6%
100～300床	4	23.5%
301床以上	4	23.5%
計	17	100%

4) 同一設置主体の併設事業

同一設置主体で「併設事業を実施している」のは、38ヶ所全てであった。事業の内訳は、訪問看護が最も多く38ヶ所全てで実施している。次いで診療所の29ヶ所 (76.32%) であった。訪問リハビリは11ヶ所 (28.95%)、通所リハビリは10ヶ所 (26.32%) であった。

表5 併設事業の有無 (n=38)

併設事業の有無	数	割合
併設事業を実施	38	100%
併設事業なし	0	0%
計	38	100%

表6 同一設置主体の併設事業の内訳 (n=38) 複数回答

事業の種類	数	割合
訪問看護	38	100%
診療所	29	76.32%
病院	11	28.95%
訪問リハビリ	11	28.95%
通所リハビリ	10	26.32%
介護療養型医療施設	8	21.05%
居宅介護支援	8	21.05%
老人保健施設	7	18.42%
短期入所療養介護	4	10.53%
訪問介護	3	7.89%
通所介護	3	7.89%
サービス付き高齢者住宅	2	5.26%
短期入所生活介護	2	5.26%
訪問入浴介護	1	2.63%
グループホーム	1	2.63%
特別養護老人ホーム	1	2.63%
療養通所介護	0	0%
福祉用具貸与	0	0%
ケアハウス	0	0%
小規模多機能	0	0%
看護小規模多機能	0	0%

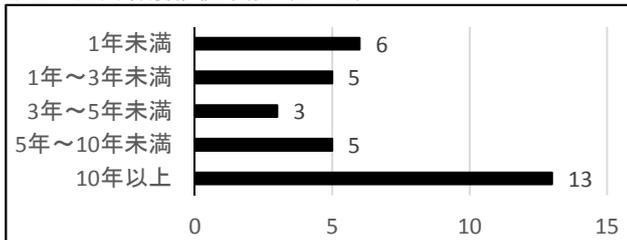
5) 訪問看護を開始してからの年数

訪問看護を開始してからの年数は「10年以上」が19ヶ所 (50.0%) と最も多く、次いで「1年未満」が6ヶ所 (15.8%) であった。

表7 訪問看護継続年数 (n=38)

継続年数	数	割合
1年未満	6	15.8%
1年～3年未満	5	13.2%
3年～5年未満	3	7.9%
5年～10年未満	5	13.2%
10年以上	19	50.0%
計	38	100%

図2 訪問看護継続年数 (n=38)



6) 加算の届出状況

加算の届出状況は、「特別管理体制加算」が16ヶ所 (42.2%) と最も多く、次いで「緊急時訪問看護加算」が14ヶ所 (36.8%) であった。「看護体制強化加算」を届出している医療機関はなかった。その他として、「初回加算」の届出をしているところが1ヶ所 (2.6%) あった。

表8 加算の届出状況 (n=38) 複数回答

加算の種類	届出の有無	
	数	割合
特別管理体制加算	16	42.1%
緊急時訪問看護加算	14	36.8%
ターミナルケア体制加算	13	34.2%
サービス体制強化加算	4	10.5%
その他 (初回加算)	1	2.6%
看護体制強化加算	0	0%

7) 独立部門としての設置状況

訪問看護を独立部門として「設置している」ところが8ヶ所 (21.1%)、「設置していない」ところが30ヶ所 (78.9%) であった。

訪問看護部を設置している内には、訪問看護を開始して10年以上経過しているところが7ヶ所 (87.5%) あった。

表9 訪問看護部門設置 (n=38)

	数	割合
設置あり	8	21.1%
設置なし	30	78.9%
計	38	100%

表10 訪問看護部門設置年数 (n=8)

	数	割合
5～10年未満	1	12.5%
10年以上	7	87.5%
計	8	100%

2. 看護職員体制

1) 看護職員

「看護職員」は、看護師が88人（86.27%）と最も多く、次いで准看護師が12人（11.76%）であった。保健師は2人（1.96%）と少なく、助産師は0人であった。看護職員の常勤換算数は「1.0人以下」が21ヶ所（55.3%）と最も多く、次いで「2.0～2.9人」が6ヶ所（15.8%）であった。

1医療機関あたりの看護職員の常勤換算数は、1.7人であった。

表11 看護職員数 平成28年6月現在（単位：人）

	従事者数				常勤換算数	
	総数	常勤		非常勤	人数	構成割合
		専従	兼務			
総数	102	39	39	24	64.71	100%
保健師	2	1	1	0	1.5	2.3%
助産師	0	0	0	0	0	0%
看護師	88	36	33	19	59.2	91.5%
准看護師	12	2	5	5	4.01	6.2%

表12 1医療機関あたりの看護職員数（n=38）

	従事者数			常勤換算従事者数 人数
	総数	常勤	非常勤	
総数	2.68	2.05	0.63	1.7
保健師	0.05	0.05	0	0.04
助産師	0	0	0	0
看護師	2.32	1.82	0.5	1.56
准看護師	0.32	0.18	0.13	0.11

表13 常勤換算数と医療機関数（n=38）

常勤換算数	医療機関数	割合
1.0以下	21	55.3%
1.1～1.9	4	10.5%
2.0～2.9	6	15.8%
3.0～3.9	3	7.9%
4.0～4.9	2	5.3%
5.0以上	2	5.3%
計	38	100%

看護職員の常勤換算数を地区別で見ると、看護師では東部が1.98人と最も多い。

表14 看護職の地区別常勤換算数

	東部	中部	西部
保健師	0	0	0.1
助産師	0	0	0
看護師	1.98	1.05	1.6
准看護師	0.12	0.15	0.07

常勤換算数と訪問看護部門設置

訪問看護部門を設置している8ヶ所の常勤換算数は、「3.0～3.9」が3ヶ所（37.5%）と最も多く、次いで「4.0以上」が2ヶ所（25.0%）であった。

訪問看護部門を設置していない30ヶ所の常勤換算数は「1.0以下」が19ヶ所（63.3%）で最も多かった。「4.0以上」のところは2ヶ所（6.7%）であった。

表15 訪問看護部門あり（n=8）

常勤換算数	数	割合
1.0以下	2	25.0%
1.1～1.9	0	0%
2.0～2.9	1	12.5%
3.0～3.9	3	37.5%
4.0以上	2	25.0%
計	8	100%

表16 訪問看護部門なし（n=30）

常勤換算数	数	割合
1.0以下	19	63.3%
1.1～1.9	4	13.3%
2.0～2.9	5	16.7%
3.0～3.9	0	0%
4.0以上	2	6.7%
計	30	100%

2) 専門・認定看護師の有無

専門・認定看護師の有無は、「いる」が5ヶ所（13.2%）、「いない」が33ヶ所（86.8%）であった。

認定看護師の分野は、訪問看護認定看護師が3人（60.0%）、脳卒中リハビリテーション看護が1人（20.0%）摂食嚥下障害看護が1人（20.0%）であった。

表17 専門・認定看護師の有無（n=38）

	数	割合
いる	5	13.2%
いない	33	86.8%
計	38	100%

表18 認定看護師の分野（n=5）

分野	人数	割合
訪問看護	3	60.0%
脳卒中リハビリテーション看護	1	20.0%
摂食嚥下障害看護	1	20.0%
計	5	100%

3. 研修受講状況

研修受講状況は「受講あり」が19ヶ所（50.0%）、「受講なし」が18ヶ所（47.4%）とほぼ同率であった。「受講予定」は1ヶ所（2.6%）であった。「受講あり」の理由は、「受講したい内容だった」が16ヶ所（84.2%）と最も多い。「受講なし」の理由は、「業務多忙で受講できない」が12ヶ所（66.7%）と最も多く、次いで「研修の開催を知らなかった」が11ヶ所（61.1%）であった。「研修の必要性を感じない」が1ヶ所（5.6%）あり、「教科書・資料・講演では意味がない」という回答であった。研修開催を知らなかったが「情報があれば受講させる」は8ヶ所（88.9%）である。受講させないとした1ヶ所の理由は、「業務多忙のため」である。

表19 研修受講の有無 (n=38)

受講	数	割合
受講あり	19	50.0%
受講なし	18	47.4%
受講予定	1	2.6%
計	38	100%

表20 受講ありの理由 (n=19) 複数回答

理由	数	割合
受講したい内容だった	16	84.2%
情報交換できるから	11	57.9%
参加しやすい地域で開催されたから	7	36.8%

表21 受講なしの理由 (n=18) 複数回答

理由	数	割合
業務多忙で受講できない	12	66.7%
研修の開催を知らなかった	9	50.0%
参加しやすい地域ではなかった	5	27.8%
受講したい内容がない	2	11.1%
研修の必要性を感じない	1	0.6%

表22 開催を知らないが情報があれば (n=9)

	数	割合
受講させる	8	88.9%
受講させない	1	11.1%
計	9	100%

4. 遠隔地への訪問看護状況

遠隔地への訪問看護を「実施している」が10ヶ所（26.3%）、「実施していない」は28ヶ所（73.7%）である。遠隔地訪問を実施していない理由は、「必要な人がいない」が23ヶ所（82.1%）で最も多く、「対応できない」は5ヶ所（17.9%）であった。「対応できない」と回答した5ヶ所のうち2ヶ所は、人員不足をあげている。「助成があれば対応できる」が2ヶ所、「助成があっても対応できない」は1ヶ所であった。

表23 遠隔地への訪問看護 (n=38)

実施の有無	数	割合
実施している	10	26.3%
実施していない	28	73.7%
計	38	100%

表24 遠隔地訪問しない理由 (n=28)

理由	数	割合
必要な人がいない	23	82.1%
対応できない	5	17.9%
計	28	100%

遠隔地への訪問看護を実施している医療機関の所在地は、西部地区では浜松市天竜区2ヶ所と磐田市の2ヶ所、浜松市北区・浜松市中区の各1ヶ所で、合計6ヶ所である。中部地区では、静岡市葵区で2ヶ所、島田市川根、牧之原市の各1ヶ所で、合計4ヶ所である。東部地区では伊豆半島の伊豆市の1ヶ所のみである。

表25 地区別の遠隔地へ対応状況 (n=11)

【東部】		【中部】		【西部】	
住所	数	住所	数	住所	数
伊豆市小立野	1	静岡市葵区井川	1	磐田市新開	2
計	1	静岡市葵区追手町	1	浜松市北区三方原	1
		島田市川根	1	浜松市天竜区西藤平	1
		牧之原市細江	1	浜松市天竜区佐久間町	1
		計	4	浜松市中区小豆餅	1
				計	6

5. 利用者の状況（平成28年6月1日～6月30日の1ヶ月）

1) 利用者の年齢・性別

平成28年6月の1ヶ月間の訪問看護利用者総数は、439人であった。男女比率は、男性208人（47.4%）、女性231人（52.6%）であった。年齢別では75～99歳が最も多く、289人（65.8%）と訪問看護利用者全体の半数以上を占めている。

表26 利用者の年齢別・性別

	男性	女性	利用者総数	
	人数	人数	人数	割合
0～15歳	16	6	22	5.0%
16～39歳	9	11	20	4.6%
40～64歳	21	15	36	8.2%
65～74歳	32	33	65	14.8%
75～99歳	130	159	289	65.8%
100歳以上	0	7	7	1.6%
計	208	231	439	100%

2) 保険別利用者数と延べ訪問回数

保険別の利用者数は、介護保険が273人（62.2%）、医療保険が162人（36.9%）であった。保険別利用者数、訪問回数の割合は共に、介護保険が全体の半数以上を占めていた。

表27 保険別利用者数 (n=37)

	利用者数	
	人数	割合
介護保険	273	62.2%
医療保険	162	36.9%
その他	4	0.9%
計	439	100%

表28 保険別訪問回数 (n=37)

	訪問回数	
	回数	割合
介護保険	1159	60.9%
医療保険	730	38.4%
その他	14	0.7%
計	1903	100%

3) 介護保険利用者の内訳

介護保険利用者を介護度別でみると、要介護4が最も多く66人（24.2%）であった。次いで要介護2が53人（19.4%）、要介護3が48人（17.6%）であった。要支援1.2は最も少なく15人（5.5%）であった。

表29 介護度別利用者状況 (人数)

	利用者数	
	人数	割合
要支援1・2	15	5.5%
要介護1	45	16.5%
要介護2	53	19.4%
要介護3	48	17.6%
要介護4	66	24.2%
要介護5	46	16.8%
計	273	100%

表30 介護度別利用者状況 (回数)

	訪問回数	
	回数	割合
要支援1・2	60	5.2%
要介護1	169	14.6%
要介護2	227	19.6%
要介護3	211	18.2%
要介護4	283	24.4%
要介護5	209	18.0%
計	1159	100%

図3 介護度別利用者状況 (人数)

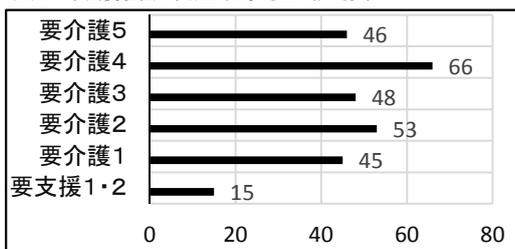
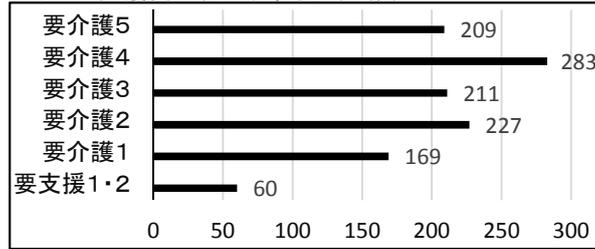


図4 介護度別利用者状況 (回数)



4) 在宅での看取り件数

平成27年度中の在宅での看取りは436件であった。

看取りを行った医療機関のうち、看取り数1~5件が11ヶ所（28.9%）と最も多く、50件以上の看取りを行っているのは3ヶ所（7.9%）である。

看取りを行っていない医療機関は、20ヶ所（52.6%）であった。

看取り数を地区別でみると、西部が183件（42.0%）と最も多かった。

表31 看取り数 (n=38)

看取り数	医療機関数	割合
0	20	52.6%
1~5	11	28.9%
6~10	2	5.3%
11~15	1	2.6%
16~20	0	0%
21~30	0	0%
31~40	0	0%
41~50	1	2.6%
50以上	3	7.9%
計	38	100%

図5 看取り数

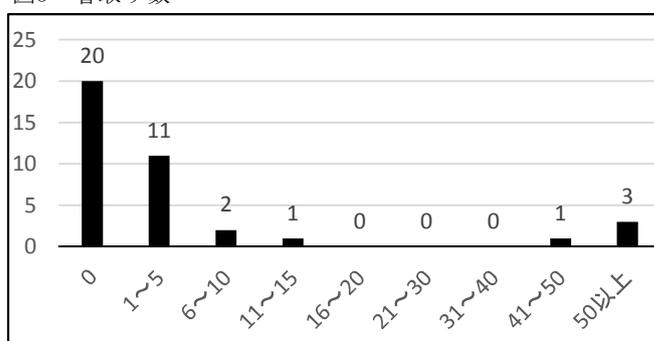


表32 地区別看取り数 (n=38)

	数	割合
東部	131	30.0%
中部	122	28.0%
西部	183	42.0%
計	436	100%

図6 地区別看取り数



6. 医療処置の実施状況

医療処置の実施状況は、「褥瘡の処置」が33ヶ所（86.8%）と最も多く、次いで「点滴・静脈注射・持続皮下注射」、「服薬」を32ヶ所（84.2%）実施している。「留置カテーテル」「吸入・吸引」が31ヶ所（81.6%）実施し、「在宅酸素療法」、「経管栄養」が30ヶ所（78.9%）実施していた。「在宅自己腹膜還流」は10ヶ所（26.3%）と最も少なかった。

表33 医療処置の実施状況（n=38）複数回答

	可		不可	
	機関数	割合	機関数	割合
褥瘡の処置	33	86.8%	5	13.2%
点滴・静脈注射・持続皮下注射	32	84.2%	6	15.8%
服薬	32	84.2%	6	15.8%
留置カテーテル（膀胱内・腎瘻・膀胱瘻）	31	81.6%	7	18.4%
吸入・吸引	31	81.6%	7	18.4%
在宅酸素療法	30	78.9%	8	21.1%
経管栄養（経鼻・胃瘻・腸瘻）	30	78.9%	8	21.1%
インスリン	29	76.3%	9	23.7%
ストーマケア	25	65.8%	13	34.2%
中心静脈栄養	23	60.5%	15	39.5%
ペインコントロール	22	57.9%	16	42.1%
在宅リハビリ（看護師による）	22	57.9%	16	42.1%
気管カニューレ	21	55.3%	17	44.7%
人工呼吸器	18	47.4%	20	52.6%
在宅自己腹膜灌流	10	26.3%	28	73.7%

7. 訪問看護ステーション設置意向

訪問看護ステーション設置意向について、「意向がない」が24ヶ所（63.2%）と最も多い。「意向はあるが要件を満たさない」が8ヶ所（21.1%）、「意向がある」が5ヶ所（13.2%）であった。「意向がある」の内2ヶ所は既に訪問看護ステーションを設置している。訪問看護部門を設置している医療機関で訪問看護ステーション設置の意向があるのは、2ヶ所（5.3%）であった。

表34 訪問看護ステーション設置意向（n=38）

	数	割合
意向がある	5	13.2%
意向があるが要件を満たさない	8	21.1%
意向がない	24	63.2%
検討中	1	2.6%
計	38	100%

図7 訪問看護ステーション設置意向（n=38）

